

2024年2月15日

住友生命保険相互会社

## スミセイ「わが家の防災」アンケート 2024

～約6割がライフライン停止時の備えなし、大規模災害の対策に課題が残る～

令和6年能登半島地震により、お亡くなりになられた方々のご冥福をお祈りし、謹んで哀悼の意を表しますとともに、被害を受けられた方々に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 高田 幸徳）は、2016年から家庭の防災対策の実態や意識に関する調査を行っています。以下は、2023年12月の調査結果です。

### ◆調査結果の概要（詳細は別紙）

**○最も備えが必要だと思う災害は「地震」。年間の防災対策費は1万円を超えるものの十分な対策には約3万円不足している。ライフライン停止時の在宅避難は約6割が備えなし（3～10ページ）**

最も備えが必要だと思う災害は、9年連続で「地震」（73.1%）が1位になった。

防災対策未実施者は3割超（32.5%）。年間の防災対策費の平均は10,292円で、十分な対策を行うための費用には29,370円不足している。

ライフライン停止時における在宅避難の対策は約6割（56.6%）が講じていない。「対策あり」の方に在宅可能日数を聞いたところ、大規模災害に備えた「7日」以上の回答は2割（16.6%）に満たなかった。

**○災害時、避難指示発令時でも“避難しない”は約5割。最後まで自宅に留まる人の約半数は避難することによる身体的・精神的負担を懸念（11～13ページ）**

災害発生時の危険度と、取るべき行動を5段階で示した「警戒レベル」をもとに避難を行うタイミングを聞いたところ、「警戒レベル4 避難指示（全員退避）」発令段階でも“避難しない”は約5割（52.8%）、いかなる警戒レベルにおいても“避難しない”は約3割（32.0%）だった。避難しない理由は、約5割（45.3%）が「自宅に留まる方が身体的・精神的負担が小さい」と回答している。

**○約8割が日常生活における気候変動の影響を感じ、世界で発生している気象災害等に不安や恐怖心を抱いている（14～16ページ）**

日常生活における気候変動の影響を感じている人は約8割（75.2%）を占め、「猛暑、気温の上昇」は約7割（71.4%）、「災害の激甚化・頻発化」は約6割（56.0%）が感じている。また、世界で発生している気象災害等に関しても、約8割（78.9%）が不安や恐怖心を抱いている。

## 【 調査概要 】

1. 調査期間 : 2023年12月26日～12月27日
2. 調査方法 : インターネット応募による選択方式および自由記入方式
3. 調査対象 : 1,000人(全国の男女各500人)

調査対象者の内訳(人)

	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	全体
北海道地方	25	18	8	12	8	8	7	43
東北地方	38	39	20	14	9	15	19	77
関東地方	213	192	84	79	83	84	75	405
中部地方	65	75	24	33	29	25	29	140
近畿地方	88	107	41	30	42	40	42	195
中国・四国地方	40	37	12	19	17	13	16	77
九州地方	31	32	11	13	12	15	12	63
合計	500	500	200	200	200	200	200	1,000

- 北海道地方 : 北海道  
 東北地方 : 青森県・岩手県・宮城県・秋田県・山形県・福島県  
 関東地方 : 茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県・東京都・神奈川県  
 中部地方 : 新潟県・富山県・石川県・福井県・山梨県・長野県・岐阜県・静岡県・愛知県  
 近畿地方 : 三重県・滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県  
 中国・四国地方 : 鳥取県・島根県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県・高知県  
 九州地方 : 福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県・沖縄県

## 【 目次 】

1. 最も備えが必要だと思う災害 ..... 3
2. 家庭の防災対策
  - a. 家庭の防災対策の評価 ..... 4
  - b. 防災対策費の理想と現実 ..... 5
  - c. 実施している家庭の防災対策 ..... 6～7
  - d. 今後、実施しなくてはいけないと思う防災対策 ..... 8
  - e. 防災対策未実施の理由 ..... 9
  - f. ライフライン停止時における在宅避難の対策 ..... 10
3. 避難準備・避難行動
  - a. 避難準備・避難を行うタイミング ..... 11
  - b. 避難しない理由 ..... 12
  - c. 避難する場所・分散避難を選択しない理由 ..... 13
4. 気候変動について
  - a. 日常生活における気候変動の影響 ..... 14～15
  - b. 世界で起こっている気候変動の影響 ..... 16

【 調査結果 】

1. 最も備えが必要だと思う災害

9年連続で1位になったのは「地震」(73.1%)ですが、全体の数値は前年比3.1pt減で、特に北海道および中部は8pt以上のマイナスになりました。以下は「台風」(9.0%)、「大雨・洪水」(6.2%)が続きました。

全体では前年から大きな変化はありませんが、地域別で見ると、調査実施直前(2023年12月下旬)に記録的大雪が発生した北海道は、「大雪・雪崩」の増加(9.1pt)が目立ちます。その他、「台風」は、近畿(4.7pt)、九州(4.4pt)で増加、「大雨・洪水」は東北(▲9.7pt)、中国・四国(▲5.0pt)で減少しました。

◆あなたにとって最も備えが必要だと思う災害は何ですか。

(数字は%、○内数字は順位)

位	2024 調査	全体	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州
1	地震	73.1	69.8①	68.8①	78.8①	72.9①	76.4①	59.7①	50.8①
2	台風	9.0	4.7③	3.9	5.7③	5.0③	11.3②	16.9②	31.7②
3	大雨・洪水	6.2	0.0	6.5③	5.9②	8.6②	3.1③	11.7③	9.5③
4	津波	3.5	4.7③	6.5③	2.7	3.6	3.1③	3.9	4.8
5	噴火	2.4	2.3	2.6	2.0	4.3	2.1	2.6	1.6
6	大雪・雪崩	2.3	14.0②	7.8②	1.0	3.6	0.0	2.6	0.0
7	土砂災害	1.6	0.0	2.6	1.5	0.7	2.1	2.6	1.6
8	その他	0.9	4.7③*	0.0	1.2	0.7	0.5	0.0	0.0
9	落雷	0.7	0.0	0.0	1.2	0.7	0.5	0.0	0.0
10	竜巻	0.3	0.0	1.3	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0

※ 北海道の「その他」:「わからない」「なし」

【前年調査】

(数字は%、○内数字は順位)

位	2023 調査	全体	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国・四国	九州
1	地震	76.2	78.0①	66.2①	80.1①	81.8①	78.1①	63.6①	54.5①
2	台風	8.9	7.3③	1.5	8.1②	6.5③	6.6②	16.7②	27.3②
3	大雨・洪水	7.6	0.0	16.2②	6.6③	7.8②	4.9③	16.7②	7.6③
4	津波	2.4	9.8②	5.9③	1.2	0.0	4.4	1.5	3.0
5	大雪・雪崩	1.3	4.9	4.4	0.7	2.6	0.5	0.0	0.0
6	噴火	1.1	0.0	4.4	1.2	0.0	1.6	0.0	0.0
7	土砂災害	0.9	0.0	0.0	0.7	0.6	1.6	0.0	3.0
	その他		0.0	1.5	0.9	0.0	1.1	0.0	3.0
9	竜巻	0.6	0.0	0.0	0.5	0.6	1.1	0.0	1.5
10	落雷	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0

## 2. 家庭の防災対策

### a. 家庭の防災対策の評価

家庭の防災対策の平均は前年から微増の 38.1 点でした。年代別では 9 年連続で 60 代が 1 位となり、前年比 7.6 点増となっています。

地域別では、東北が前年から 6.9 点と大幅にアップし、45.8 点で 1 位になりました。また、近畿も 5.2 点増で前年最下位から 4 位に上昇しています。

◆ご家庭の防災対策に点数をつけるとすれば、100 点満点中何点ですか。

#### 【平均：全体・男女別】

(数字は点数、○内数字は順位)

	今回	前年	前々年
全体	38.1	36.0	36.8
男性	39.7	37.5	38.8
女性	36.4	34.4	34.8

#### 【平均：年代別】

位	年代	今回	前年	前々年
1	60代	47.4	39.8 <sup>①</sup>	42.8 <sup>①</sup>
2	40代	39.5	35.1 <sup>③</sup>	37.4 <sup>③</sup>
3	50代	35.2	37.7 <sup>②</sup>	37.8 <sup>②</sup>
4	20代	34.6	33.6 <sup>④</sup> *	33.1 <sup>④</sup>
5	30代	33.6	33.6 <sup>⑤</sup> *	32.8 <sup>⑤</sup>

※ 前年 20代 33.58 点、30代 33.56 点

#### 【平均：地域別】

位	地域	今回	前年	前々年
1	東北	45.8	38.9 <sup>②</sup>	35.9 <sup>④</sup>
2	北海道	39.6	39.6 <sup>①</sup>	40.4 <sup>①</sup>
3	関東	38.1	37.7 <sup>④</sup>	38.7 <sup>②</sup>
4	近畿	37.9	32.7 <sup>⑦</sup>	35.3 <sup>⑤</sup>
5	中部	36.6	32.9 <sup>⑥</sup>	33.6 <sup>⑦</sup>
6	中国・四国	36.5	38.0 <sup>③</sup>	33.7 <sup>⑥</sup>
7	九州	32.9	33.6 <sup>⑤</sup>	37.5 <sup>③</sup>

### b. 防災対策費の理想と現実

年間の防災対策費は、十分な対策を行う場合に必要となる費用（理想）が平均 39,662 円であるのに対し、実際の支出（現実）は平均 10,292 円と、理想と現実に 29,370 円のギャップが生じました。前年比較では、現実が 291 円減でほぼ変わらずですが、理想は 2,188 円上昇し、防災対策への意識は向上しているようです。また、コストをかけない「0円」回答は、前年から微減の 36.4%で過去最低となりました。

地域別では、東北が前年比 10,615 円増の 20,655 円となり、「家庭の防災対策の評価」（前出 2-a）と同様に 1 位となりました。

◆この一年間で十分な防災対策を行う場合に必要となる費用（理想）と、実際に支出された金額（現実）を教えてください。

#### 【理想と現実の平均：全体】

(円)

	今回	前年
必要な支出 (理想)	39,662	37,474
実際の支出 (現実)	10,292	10,583
差額 (現実－理想)	▲29,370	▲26,891

#### 【支出平均：全体・男女別】

(円)

	今回	前年	前々年
全体	10,292	10,583	3,770
男性	11,096	11,898	3,623
女性	9,489	9,267	3,917

#### 【支出平均：地域別】

(数字は円、○内数字は順位)

位	地域	今回	前年	前々年
1	東北	20,655	10,040③	2,741⑦
2	中国・四国	12,262	21,317①	3,055⑥
3	関東	10,384	9,498④	4,018③
4	中部	9,474	5,788⑥	3,467④
5	近畿	8,149	15,267②	3,369⑤
6	北海道	7,905	4,515⑦	4,964①
7	九州	4,715	9,311⑤	4,920②

#### 【支出「0円」回答の割合：全体・男女別・年代別】

(%)

	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代
今回	36.4	38.2	34.6	43.0	39.0	32.0	37.0	31.0
前年	36.7	38.4	35.0	41.5	40.5	37.0	34.5	30.0
前々年	50.0	54.6	45.4	55.5	51.0	49.5	51.5	42.5

c. 実施している家庭の防災対策

2位の「特になし」(32.5%)を除く約7割(67.5%)が防災対策に取り組んでおり、前年同様、「非常用飲料水の備蓄」(36.2%)、「非常用食品の備蓄」(30.6%)が上位に入りました。

◆ご家庭で実施している防災対策は何ですか。(複数回答可)

「特になし」(32.5%)を除く67.5%が、防災対策に取り組んでいる。

(数字は%、○内数字は順位)

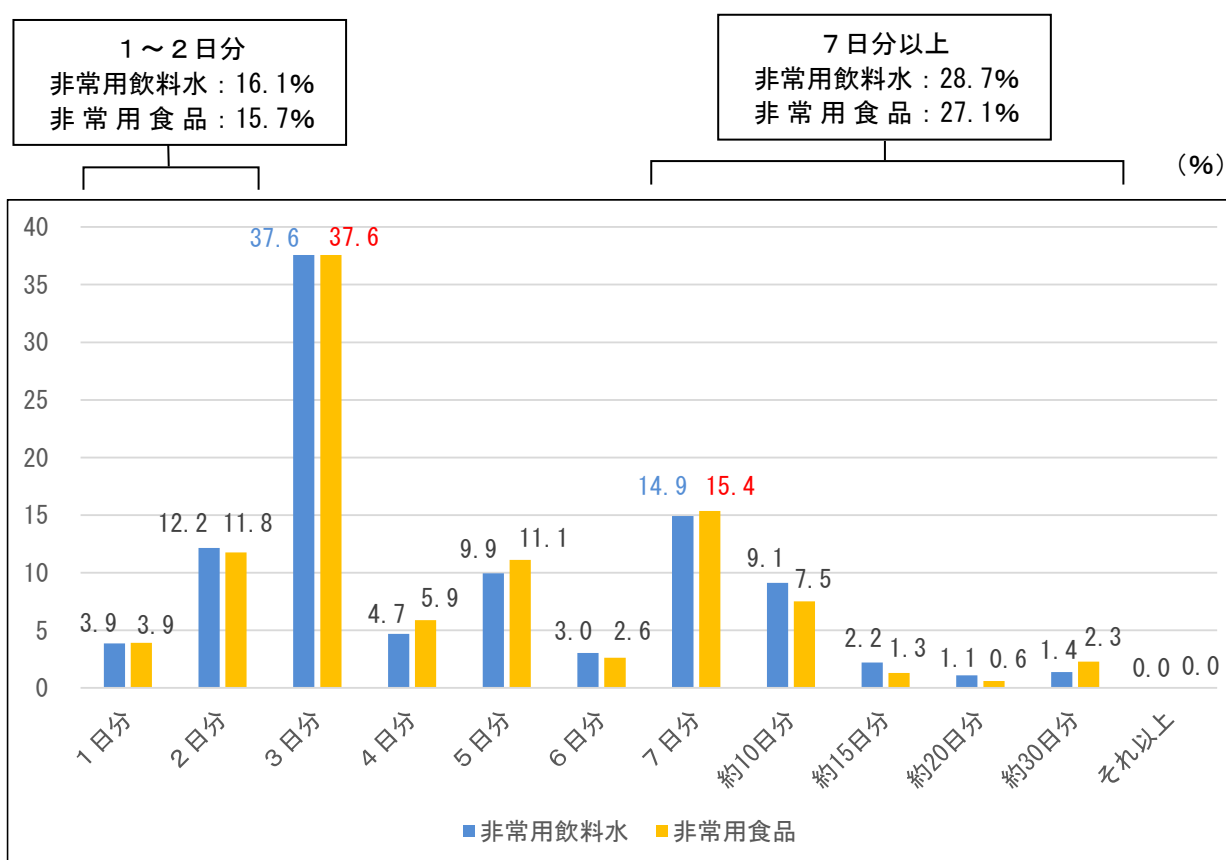
位		今回	前年
1	非常用飲料水の備蓄	36.2	38.4①
2	特になし	32.5	33.7③
3	非常用食品の備蓄	30.6	35.7②
4	非常用持ち出し袋の準備	28.6	28.0④
5	寝室に懐中電灯やスリッパ等を用意	22.7	23.9⑤
6	家具などの転倒・落下防止策	22.5	21.7
7	ハザードマップ(被害予測地図)の確認	20.2	23.6⑥
8	避難場所・経路の確認	20.1	21.5
9	家族間での連絡方法の確認	14.8	13.8
10	家屋の耐震化	13.7	10.7
11	ローリングストック	13.5	15.8
12	自治体や勤務先の防災情報メールに登録(キキクル以外)	6.6	7.2
13	防災冊子の入手・購入	6.2	6.4
14	防災訓練の実施・参加	5.6	6.9
15	線状降水帯予想を確認できるアプリ等	4.6	3.0
16	キキクル(危険度分布)の通知サービスに登録	2.1	2.1
17	その他	0.2	0.8

非常用飲料水（対象者：362人）および非常用食品（対象者：306人）の備蓄量は、「3日分」、「7日分」が多いという結果になりました。国や地方公共団体等は“最低3日分、大規模災害に備えてできれば1週間分”を推奨していますが、その基準に満たない「2日分」以下は約2割（非常用飲料水16.1%、非常用食品15.7%）、「7日分」以上は約3割（非常用飲料水28.7%、非常用食品27.1%）でした。万一のために、防災備蓄は多く備えておきたいものです。

◆ご家庭で、何日分の非常用飲料水および食品を備蓄していますか。

\*対象：実施している家庭の防災対策が「非常用飲料水」（362人）・

「非常用食品」（306人）との回答者



d. 今後、実施しなくてはならないと思う防災対策

1位から順に「非常用飲料水の備蓄」(64.5%)、「非常用持ち出し袋の準備」(63.9%)、「非常用食品の備蓄」(61.6%)となりました。

13位の「特になし」は全体では19.6%ですが、防災対策未実施者の32.5%（「実施している家庭の防災対策」(前出2-c)が「特になし」との回答者）とは12.9ptの差が生じ、必要だと思いつつ対応できていないことがわかります。なお、年代別では20代(28.5%)・30代(25.0%)の数値が高く、若い世代の防災意識の低さがうかがえます。

◆今後、あなたのご家庭で実施しなくてはならないと思う防災対策は何ですか。

現在対策済みのもも含めて回答してください。(複数回答可)

(数字は%、○内数字は順位)

位		全体	20代	30代	40代	50代	60代
1	非常用飲料水の備蓄	64.5	49.0②	59.5①	63.5①	72.5①	78.0①
2	非常用持ち出し袋の準備	63.9	54.0①	58.5②	60.0③	72.0②	75.0②
3	非常用食品の備蓄	61.6	45.5③	56.5③	61.5②	71.0③	73.5③
4	家具などの 転倒・落下防止策	51.1	34.0④	40.5④	52.0④	61.0④	68.0④
5	寝室に懐中電灯や スリッパ等を用意	45.2	28.0	35.5⑤	45.0⑤	59.0⑤	58.5⑥
6	避難場所・経路の確認	42.8	31.0⑤	33.5⑥	41.5⑥	48.5⑥	59.5⑤
7	家族間での連絡方法の確認	38.5	27.5	28.5	36.5	48.0	52.0
8	ハザードマップ (被害予測地図)の確認	37.7	23.0	33.5⑥	39.0	44.0	49.0
9	家屋の耐震化	34.9	21.0	28.0	38.5	41.0	46.0
10	ローリングストック	28.6	17.0	27.0	26.0	37.0	36.0
11	防災訓練の実施・参加	24.1	15.0	19.5	25.5	29.0	31.5
12	自治体や勤務先の防災情報 メールに登録(キキクル以外)	20.9	11.5	16.5	22.5	27.5	26.5
13	特になし	19.6	28.5⑥	25.0	19.5	13.5	11.5
14	防災冊子の入手・購入	18.5	11.5	17.0	17.5	21.5	25.0
15	線状降水帯予想を 確認できるアプリ等	17.5	12.5	16.0	15.5	21.0	22.5
16	キキクル(危険度分布)の通 知サービスに登録	13.9	10.5	11.0	11.5	18.5	18.0
17	その他	0.5	0.0	0.0	0.5	0.5	1.5



### e. 防災対策未実施の理由

防災対策未実施者は32.5%（「実施している家庭の防災対策」（前出2-c）が「特になし」との回答者）で、年代が下がるほど多くなり、20代では約5割（45.0%）を占めています。

未実施の理由の1位は「何をしたらよいか分からない」（33.2%）で、「特になし」という関心の低い回答は28.6%でした。なお、60代は「何をしたらよいか分からない」（14.6%）は低いものの、約4割（41.5%）が「つい先延ばしにしてしまう」と回答しています。

### ◆防災対策を実施していない理由は何ですか。（複数回答可）

\*対象：実施している家庭の防災対策（前出2-c）が「特になし」との回答者（325人）

（数字は%、○内数字は順位）

		全体 (325人)	20代 (90人)	30代 (79人)	40代 (62人)	50代 (53人)	60代 (41人)
位	%	<u>32.5</u>	<u>45.0</u>	<u>39.5</u>	<u>31.0</u>	<u>26.5</u>	<u>20.5</u>
1	何をしたらよいか 分からない	<u>33.2</u>	37.8①	30.4①	35.5①	41.5①	<u>14.6</u>
2	つい先延ばしに してしまう	28.9	17.8	24.1③	33.9②	39.6②	<u>41.5①</u>
3	特になし	<u>28.6</u>	31.1②	30.4①	27.4③	22.6③	29.3②
4	面倒	23.7	26.7③	20.3	25.8	20.8	24.4③
5	お金がかかる	18.8	16.7	20.3	22.6	22.6③	9.8
6	やっても無駄	5.8	3.3	2.5	6.5	11.3	9.8
7	その他	0.3	0.0	1.3	0.0	0.0	0.0

f. ライフライン停止時における在宅避難の対策

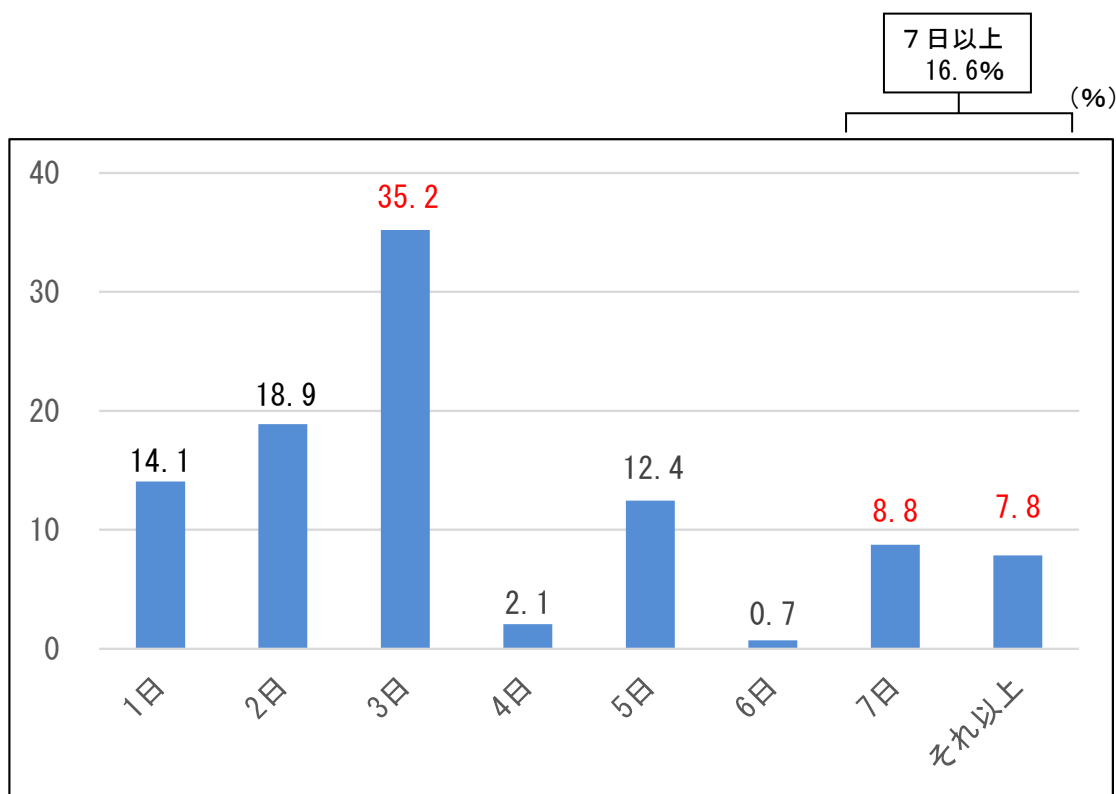
大規模な災害が発生すると、電気・水道・ガス・通信等にも多大な影響が発生します。ライフラインが途絶えた状況下での在宅避難について、対策を「講じていない」は約6割（56.6%）にのぼりました。なお、対策ありの方の在宅避難可能日数は「3日」が最多（35.2%）で、大規模災害の備えとして望ましい「7日」以上は2割未満（16.6%）でした。

◆ライフライン（電気・水道・ガス・通信等）停止時における在宅避難の対策（食事・トイレ・熱源・情報等）は講じていますか。

	講じている	講じていない
ライフライン停止時における在宅避難の対策	43.4	56.6

◆現在の対策で、ライフラインが途絶えた状況下において、何日の在宅避難が可能ですか。

\*対象：ライフライン停止時における在宅避難の対策を「講じている」との回答者（434人）



### 3. 避難準備・避難行動

#### a. 避難準備・避難を行うタイミング

警戒レベルとは、災害発生の危険度と取るべき避難行動を住民が直観的に理解できるよう、5段階のレベルで示された情報です。警戒レベルをもとに、避難および避難準備を行うタイミングを聞いたところ、いずれにおいても“しない”という回答が3割超（“避難準備”31.9%、“避難”32.0%）で最多となりました。また、“避難”については、「警戒レベル4 避難指示（全員退避）」発令段階でも“しない”（「警戒レベル5 緊急安全確保」の段階で避難（20.8%）と「避難しない」（32.0%）の計）が過半（52.8%）を占めました。

◆災害時、自宅が危険な場所である場合、避難準備・避難を行う警戒レベルを教えてください。

（数字は%、○内数字は順位）

警戒レベル	状況	行動を促す情報	避難準備	避難
警戒レベル1	今後 気象状況悪化のおそれ	<b>早期注意情報</b> 災害の心構えを高める	6.7 <sup>⑤</sup>	4.8 <sup>⑤</sup>
警戒レベル2	気象状況悪化	<b>大雨・洪水・高潮注意報</b> ハザードマップ等で避難行動を確認	9.2 <sup>④</sup>	3.5 <sup>⑥</sup>
警戒レベル3	災害のおそれあり	<b>高齢者等避難</b> 危険な場所から高齢者等退避	24.6 <sup>②</sup>	11.6 <sup>④</sup>
警戒レベル4	災害のおそれ高い	<b>避難指示</b> 危険な場所から全員退避	21.9 <sup>③</sup>	27.3 <sup>②</sup>
警戒レベル5	災害発生または切迫	<b>緊急安全確保</b> 命の危険 直ちに安全確保！	5.7 <sup>⑥</sup>	20.8 <sup>③</sup>
避難準備または 避難しない	—	—	31.9 <sup>①</sup>	32.0 <sup>①</sup>

※警戒レベル1～2は気象庁発表、3～5は市町村発令

「警戒レベル4 避難指示（全員退避）」が発令されても“避難しない”が52.8%。

## b. 避難しない理由

災害時、自宅が危険な場所にあっても「避難しない」との回答者（320人）に理由を聞いたところ、約半数（45.3%）が「自宅に留まる方が身体的・精神的負担が小さい」と答えました。

なお、避難所に関するものとして、「暑さ・寒さ対策に不安を感じる」（13.1%）や、「感染症対策に不安を感じる」（8.4%）が挙げられており、能登半島地震における避難所生活においてもこの課題が発生しています。さらに、断水によるトイレ問題や、身体的・精神的負担による災害関連死の増加等、長期化する避難生活の問題が露呈し、被災された方が安心・安全に暮らせる生活環境の改善や支援が急務になっています。

### ◆災害時、あなたが避難しない理由を教えてください。（複数回答可）

\*対象：避難準備・避難を行うタイミング（前出3-a）で、いかなる警戒レベルにおいても「避難しない」との回答者（320人）

位	避難しない理由	%
1	自宅に留まる方が身体的・精神的負担が小さい	45.3
2	自宅に避難させてくれるような、親戚・知人がいない	28.8
3	お金がかかる	15.0
4	避難所の暑さ・寒さ対策に不安を感じる	13.1
	必要な支援が受けられるか心配	13.1
6	馴染みのない場所に行くのが不安	11.6
7	安全に避難できるホテルや宿泊施設を把握していない	10.3
8	自宅不在時の盗難等の被害が心配	8.8
9	避難所の感染症対策に不安を感じる	8.4
10	避難時のホテルや宿泊施設の空き状況が心配	7.5
11	ペット（犬、猫等）を連れていけない	6.3
12	小さい子どもや要介護者（高齢者や障がい者）を連れて避難できない	5.3
13	車（車中避難や移動手段としての）がない	5.0
14	その他	2.8

c. 避難する場所・分散避難を選択しない理由

災害時、自宅が危険な場所である場合の避難先は、「市町村指定の避難場所・避難所」が8割超（82.2%）で1位になりました。避難場所・避難所は多くの人が集まるため感染症のリスクが懸念されますが、選択理由として約5割（48.1%）が「避難所が最も支援を受けやすい」と回答しており、分散避難が進まない一因になっているようです。

◆自宅が危険な場所である場合、あなたが避難する場所を教えてください。（複数回答可）

\*対象：避難準備・避難を行うタイミング（前出3-a）で、いかなる警戒レベルにおいても「避難しない」以外の回答者（680人）

位	避難する場所	%
1	市町村指定の避難場所・避難所	82.2
2	車中	17.6
3	ホテル等の宿泊施設	15.0
4	親戚宅	12.2
5	知人宅	4.4
6	その他	1.0

◆「市町村指定の避難場所・避難所」（多くの人が集まるため感染リスクの懸念あり）を選択された理由を教えてください。（複数回答可）

\*対象：自宅が危険な場所である場合、避難する場所が「市町村指定の避難場所・避難所」との回答者（559名）

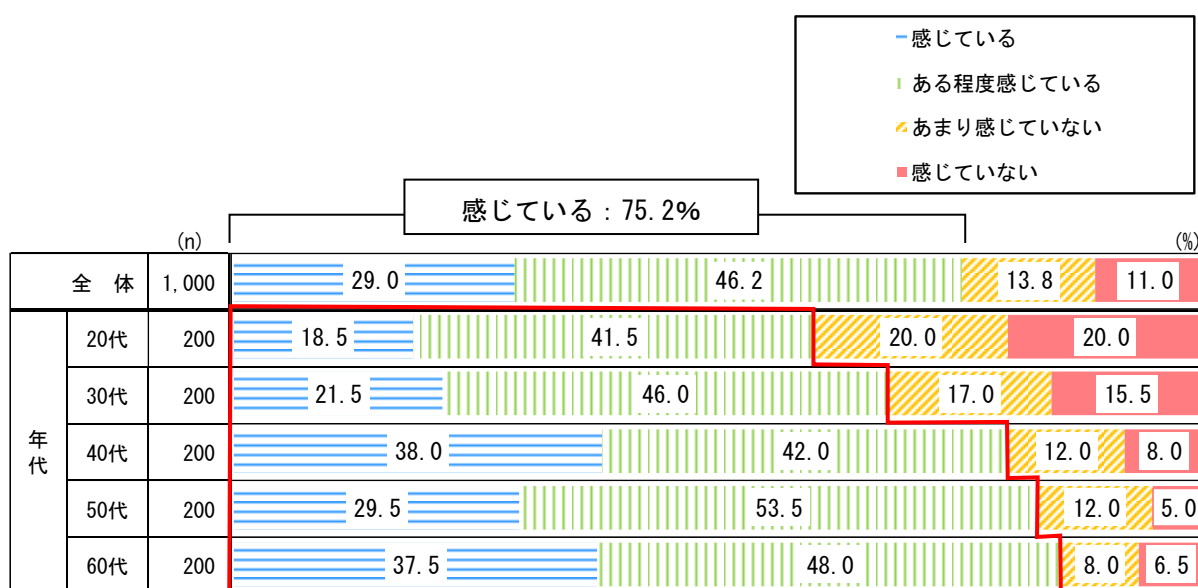
位	分散避難をしない理由	%
1	避難所が最も支援を受けやすい	48.1
2	ホテルや宿泊施設はお金がかかる	22.4
3	取り残されて、必要な支援が受けられないのではないかと心配	20.9
4	安全に避難できるホテルや宿泊施設を把握していない	19.1
5	避難時のホテルや宿泊施設の空き状況が心配	18.8
6	自宅に避難させてくれるような、親戚・知人がいない	16.8
7	避難所の感染症対策が充分	15.9
8	馴染みのない場所に行くのが不安	15.6
9	車（車中避難や移動手段としての）がない	9.3
10	ペット（犬、猫等）を連れていけない	8.8
11	小さい子どもや要介護者（高齢者や障がい者）を連れて避難できない	5.7
12	親戚・知人宅は、感染対策をとりにくい	2.9
13	その他	0.5

#### 4. 気候変動について

##### a. 日常生活における気候変動の影響

近年、日本では猛暑や大雨が増加し、世界各地でも熱波や干ばつ、大規模な山火事が発生するなど、地球温暖化による気候変動の影響が深刻化しています。気候変動による日常生活での影響について聞いたところ、約8割（75.2%）が“感じている”（「感じている」（29.0%）と「ある程度感じている」（46.2%）の計）と回答しました。なお、“感じている”の数値は年代とともに上昇し、60代は約9割（85.5%）にのぼりました。

◆日常生活において、気候変動の影響を感じていますか。



日常生活で感じている気候変動の事象として、約7割（71.4%）が「猛暑、気温の上昇」を、約6割（56.0%）が「災害の激甚化・頻発化」を、さらに約4割が「農業への影響」（42.7%）と「四季への影響」（39.2%）を挙げました。

また、最も感じているものは、「猛暑、気温の上昇」（45.2%）、「災害の激甚化・頻発化」（29.7%）が特に高くなりました。

◆日常生活で感じている気候変動の影響を教えてください。（複数回答可）

\*対象：日常生活における気候変動の影響（前出4-a）で、“感じている”との回答者（752人）

位	日常生活で感じている気候変動の影響	%
1	猛暑、気温の上昇	71.4
2	災害の激甚化・頻発化	56.0
3	農業（農作物の品質や収穫量の低下）への影響	42.7
4	四季への影響	39.2
5	漁業（漁獲量の減少）への影響	32.4
6	氷河の融解・海面上昇	31.9
7	熱中症リスクの増大	31.0
8	干ばつ・水不足	26.6
9	野生生物の生息域の変化	25.9
10	感染症リスクの増大	20.3
11	森林火災	19.4
12	観光（季節性のもの等）・レジャー（自然資源を活用したもの等）への影響	10.5

◆日常生活で最も感じている気候変動の影響をお答えください。

\*対象：日常生活における気候変動の影響（前出4-a）で、“感じている”との回答者（752人）

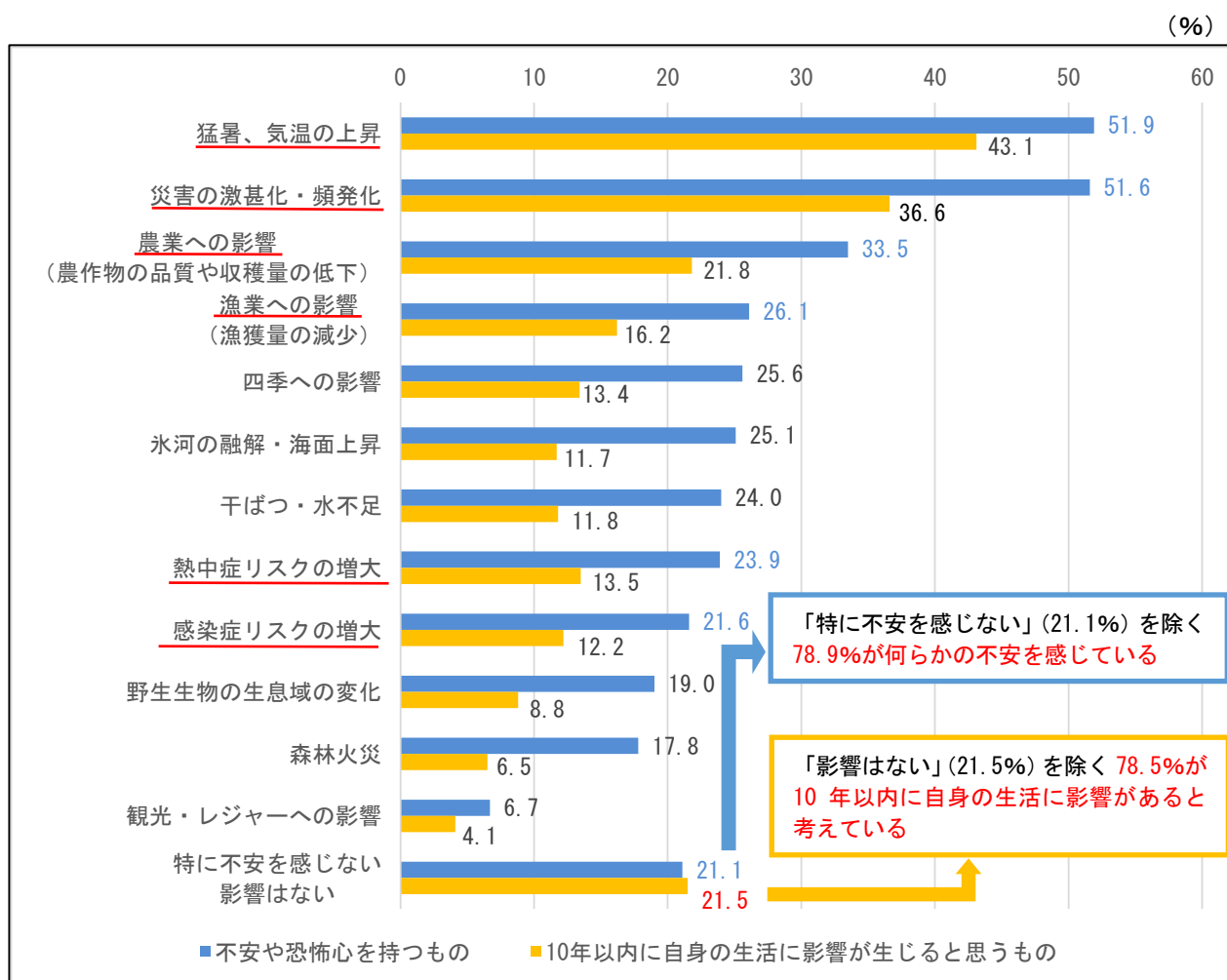
位	日常生活で最も感じている気候変動の影響	%
1	猛暑、気温の上昇	45.2
2	災害の激甚化・頻発化	29.7
3	農業（農作物の品質や収穫量の低下）への影響 四季への影響	5.2
5	氷河の融解・海面上昇	3.3
6	熱中症リスクの増大 観光（季節性のもの等）・レジャー（自然資源を活用したもの等）への影響	2.5
8	干ばつ・水不足	2.0
9	感染症リスクの増大	1.7
10	漁業（漁獲量の減少）への影響	1.3
11	野生生物の生息域の変化	1.2
12	森林火災	0.1

## b. 世界で起こっている気候変動の影響

世界中で気象災害等が発生しており、約8割（「特に不安を感じない」(21.1%) 以外の回答者 78.9%）が何らかの不安や恐怖心を抱いています。不安を感じる事象については、約5割が「猛暑、気温の上昇」(51.9%) と「災害の激甚化・頻発化」(51.6%) を、約3割が食糧供給に関する「農業への影響」(33.5%) と「漁業への影響」(26.1%) を、約2割が健康に関する「熱中症リスクの増大」(23.9%) と「感染症リスクの増大」(21.6%) を挙げました。

なお、10年以内に自身の生活に影響が生じると考えている人も約8割（「影響はない」(21.5%) 以外の回答者 78.5%）でしたが、各事象の数値は「不安や恐怖心を持つもの」よりも低くなり、不安はあっても自分事として危機感を持つまでには至っていないようです。

◆世界で起こっている気候変動の影響について不安や恐怖心を持つものと、10年以内にあなたの生活に影響が生じると思うものを選択してください。（複数回答可）



以上